

教科（地理歴史） 科目（世界史B） 学年（3） 単位数（5）

類型（文）

履修規定（選択）

学習の目標			使用する主な教材					
多様な時代・地域の歴史を学習し、日本の歴史との共通点や相違点を知る。そして、その共通点や相違点が生じた要因は何なのか追究する中で、日本の歴史への理解をいっそう深めるとともに、文化の多様性を理解し、異文化を尊重できる態度を育成する。			・教科書 『詳説 世界史 改訂版』（山川出版社） ・副教材 『詳説 世界史図録』（山川出版社）					
			評価の観点 ① 関心・意欲・態度 ③ 資料活用 of 技能 ② 思考・判断・表現 ④ 知識・理解					
期	月	学 習 内 容	学 習 の 具 体 的 内 容 と ね ら い	主な評価の観点				
				①	②	③	④	
一 学 期	4	第 8 章 アジア諸地域の繁栄	・ 14 世紀以降興隆したアジアの大帝国について、ヨーロッパの主権国家の成立過程と対比しながら理解する。	○	◎	○		
	5	第 9 章 近世ヨーロッパの成立	・ ヨーロッパ世界拡大の要因、経過、過程について理解する。 ・ 近代市民社会の主発点としてのルネサンスの特色を理解する。 ・ 宗教改革の革新性と限界を考察するとともに、資本主義社会成立の素地を形成したことを理解する。 ・ 国民国家形成の前段階としての主権国家の展開を考察する。	◎		○	○	
		6	第 10 章 ヨーロッパ主権国家体制の展開	・ 王権から市民への権力の遷移について経済面を中心に考察する。 ・ 時代状況を如実に繁栄した二つの芸術様式について理解する。	○	◎		○
					◎	○	○	
		7	第 11 章 欧米における近代社会の成長	・ 「ヨーロッパの優勢」「アジア・アフリカの停滞」の遠因となった産業革命の光と影の部分を両面から考察する。 ・ 近代民主主義及び「市民の時代」の本格的幕開けとなったアメリカとフランスの革命の意義について考察する。 ・ ウィーン体制の特質と、それが民族運動の萌芽となったことを理解し考察する。	◎	◎	○	○
		第 12 章 欧米における近代国民国家の発展		◎	○		○	
二 学 期	8	第 13 章 アジア諸地域の動揺	・ アジアの大帝国の衰退と、それに伴う植民地化の進展を、双方向から考察する。	○	◎		○	
	9	第 14 章 帝国主義とアジアの民族運動	・ A・A 地域初の民族運動について考察する。 ・ 「現代」の胎動としての、A・A 諸国の衰亡と、植民地化の過程について理解し、現在の世界との関連を考察する。 ・ わが国の歴史と関連づけながら、東アジア地域の変容を俯瞰する。	○		◎		
			◎	◎	○	○		
	10	第 15 章 二つの世界大戦	・ 列強の二極化と、第一次世界大戦の過程を、主に経済面から理解し察する。 ・ 当時のアジア諸国の日本観を理解し、今後の日本の歩むべき方向性について考察する。	◎	◎	○	○	
			◎	○		○		
12	第 16 章 冷戦と第三世界の自立 第 17 章 現在の世界	・ 「冷戦」→「冷戦の緩和」→「多極化」→「冷戦終結」の過程を理解する。 ・ 現在の社会の諸問題を歴史的思考により整理する。	◎	○		○		
三 学 期	1	共通テスト問題演習		◎	○		○	
評価の方法		定期考査の得点に平常点（課題・授業態度・小テスト等）を加味して 100 点満点で各学年とも算出する。学年末の成績は各学期の成績をもとに算出する。主に、①、②、③、④の 4 つの観点から総合的に判断する。						
備 考								